

## 独立行政法人における研究とキャリア形成：ポスドク問題に関連して

## Career path at Research Institution of the Independent Administrative Agency: their relation to postdoc problems

# 北里 洋 [1]

# Hiroshi Kitazato[1]

[1] 海洋研究開発機構・IFREE

[1] IFREE, JAMSTEC

独立行政法人は研究あるいは技術開発を本務とする組織である。ここには、原則的には教育のタスクはないので、そこで働く研究者は大学から供給される。その意味で、独立行政法人は大学院生 - 博士課程修了者の受け皿である。最近、独法においてもその目的に合致した人材育成が必要であることが議論されており、それに関連して、大学研究機関との連携および人事交流などがより一層行われるようになって来た。また、ポスドク研究員をより多く受け入れようとの動きもある。

独立行政法人の研究者のキャリア形成を、独立行政法人海洋研究開発機構（以降 JAMSTEC と略す）を例として示す。JAMSTEC では、研究に従事する者のキャリアを、研究員と技術研究員の二つのカテゴリーで構成し、評価を行っている。研究員は、もっぱら研究によって評価されるポストであり、5年間の研究員、最大限10年間の主任研究員（tenure-track position）、そして定年までいることができる上席研究員（tenured position）の職位がある。ポスドク研究員は、研究員への準備期間として研究員キャリアの軸に位置づけている。一方、技術研究員は、研究に必要な技術開発を行いながら研究にも参加するポストであり、技術と研究の両面で評価される。したがって主筆の研究論文が少なくても、特許、実用化などの技術開発面で優れた進歩が見られればポジティブな評価を受けることができる。研究員と技術研究員の割合は、研究分野ごとに異なるが、平均的には半々である。この制度を導入したことは、今のところ上手く働いている。非常に優れた分析手法がどんどん開発され、また、観測実験機器も世界に互すレベルにある。

しかし、世間では、技術研究員と言う職務に対する理解が少なく、技官として研究員の下に置く風潮が残っているために、技術研究員が不遇感覚を潜在的に拭えないでいる。技術研究員という職種が機能することは、学位取得者のキャリアパスの多様化につながる。研究の企画事務、サイエンスコーディネーター、サイエンスインタープリターなど、高度の研究を行った人間にこそできる職種もあり、JAMSTEC のそのような職域には、学位を持った人材がそれぞれ何人かおり、活躍している。

ポスドク問題は世界中で深刻である。しかし、学位取得後のキャリアパスの多様化を進めることによって、深刻さをいくらかでも緩和できるのではないかと考えている。